

生駒山麓公園再整備 基本構想

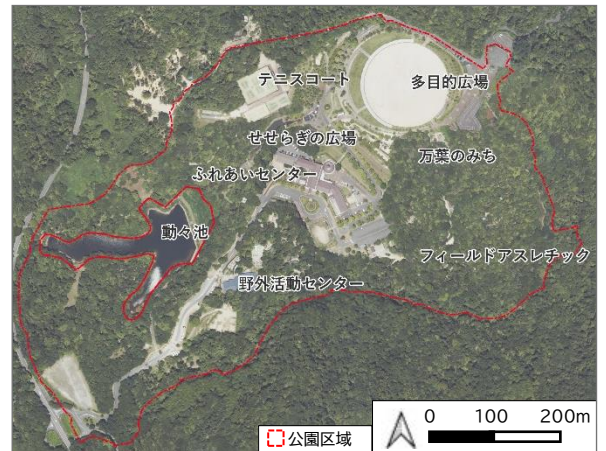
1. 生駒山麓公園の基本的事項

1) 生駒山麓公園の概要

名称	生駒山麓公園
公園種別	総合公園
所在地	生駒市俵口町 2088 番地
面積	約 29.0 ha （供用面積）
整備経過	平成元年(1989) 9 月 計画決定 平成 3 年(1991)11月 供用開始
主な施設概要	ふれあいセンター、野外活動センター フィールドアスレチック、多目的広場 テニスコート、大型木製遊具 万葉のみち、せせらぎの広場、駐車場
主要アクセス	《自家用車》 信貴生駒スカイライン「阪奈料金所」 から約5分 《送迎バス》 近鉄奈良線「生駒駅」から約16分

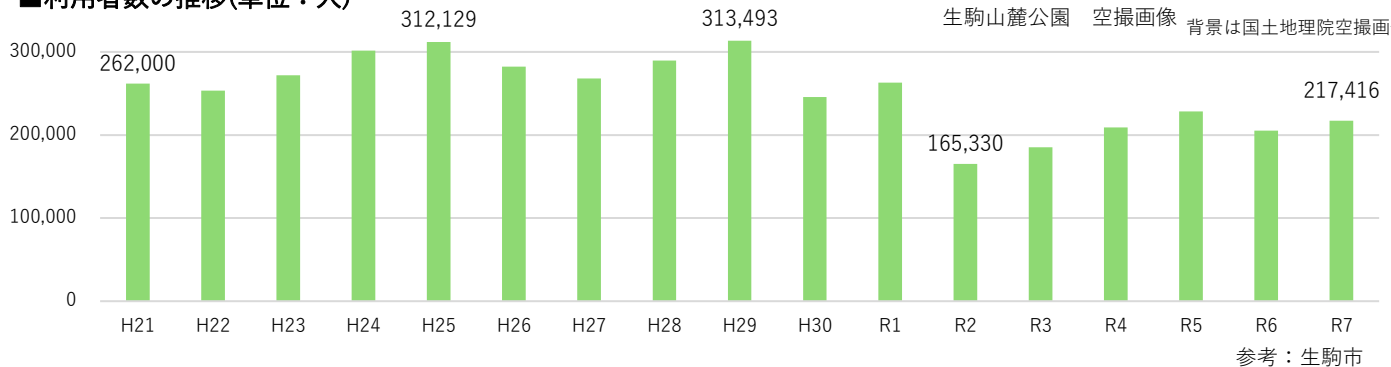


生駒山麓公園 位置



生駒山麓公園 空撮画像 背景は国土地理院空撮画像

■利用者数の推移(単位：人)



ふれあいセンター



フィールドアスレチック



野外活動センター

2) 自然的条件、社会的条件

(1) 自然的条件

1. 地形

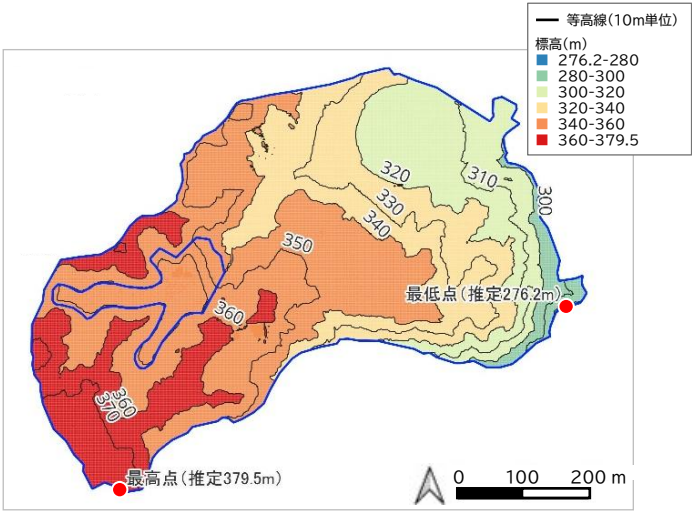
生駒山(標高642m)の中腹、標高約280m～380mの範囲にあり、園内で約100mの高低差があります。傾斜角が20度以上の箇所が広い範囲を占め、平坦地はほぼ建物、駐車場、多目的広場等の公園施設設置箇所です。

2. 植生

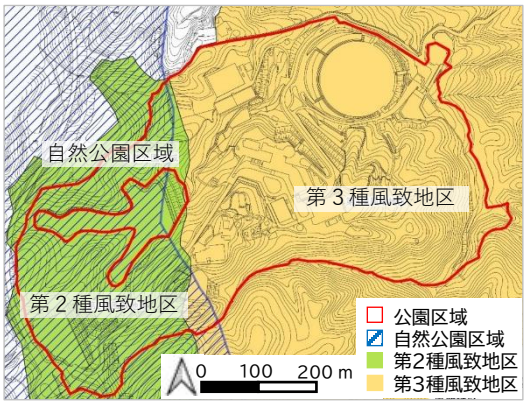
アカマツ、コナラのそれぞれが優占する森林植生が広く占めており、沢沿いには湿地性の植生も見られます。森林植生は二次的自然ですが、人の手が入らずアカマツ林は衰退気味です。

3. 法規制

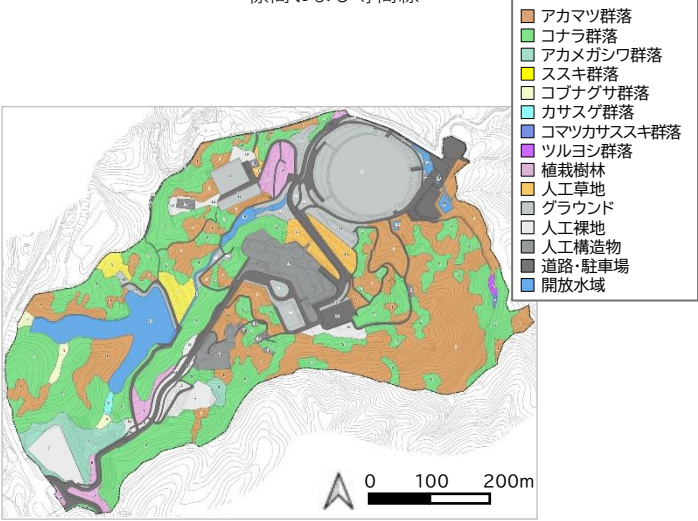
公園区域は、全体が市街化調整区域、風致地区(第2種、第3種)に含まれています。また、西半分は自然公園区域(金剛生駒紀泉国定公園)に指定されています。



標高および等高線



法規制図



植生分布図

(2) 社会的条件

1. 歴史

生駒山は古くから霊山として信仰を集め、役行者や弘法大師空海も修行したと伝えられる地です。江戸時代には宝山寺が開かれ、「生駒の聖天さん」として広く知られるようになりました。

また、本地域は交通の要衝として発展。江戸時代には、奈良と大阪を最短で結ぶ暗峠奈良街道が、伊勢参詣道として旅人に利用されました。その後、大正3年(1914)に奈良と大阪を長距離トンネル(のちの生駒隧道)で結ぶ大阪電気軌道(現：近鉄奈良線)が開通し、大正7年(1918)には生駒駅(鳥居前駅)と宝山寺を結ぶ日本初のケーブルカーが誕生しました。

このように生駒山は信仰の場であると同時に、交通の結節点としての役割が現在まで受け継がれています。



生駒山
(生駒市オープンデータ)



暗峠
(生駒市デジタルミュージアム)

2. 周辺施設

本公園の周辺には、株式会社近鉄生駒レジャーが運営する生駒山上遊園地や、大阪府が整備した府民の森(くろんど園地、ほしだ園地、むろいけ園地、くさか園地、ぬかた園地、なるかわ園地)等が広域的に分布しています。また、生駒縦走道等のハイキングコースが複数整備されており、ハイカーやトレイルランナーからの人気も高いエリアとなっています。

3. 交通

阪奈道路等の複数の主要道路と、近鉄奈良線や生駒線、生駒ケーブル等の鉄道網が整備されていることで、大阪、奈良といった周辺都市との交通利便性が高い地域です。

4. 人口

本市の人口は、令和 8 年(2026)3月末現在で 115,673人、世帯数は 52,227世帯 となっており、平成25年(2013)の121,350人をピークに人口減少が進んでいます。



宝山寺
(生駒市デジタルミュージアム)



生駒山上遊園地
(提供：株式会社近鉄生駒レジャー)



山麓公園の周辺交通網図

(3) 上位・関連計画の整理

この基本構想は、公園や施設の現状と市民や利用者、事業者等のご意見、そして本市が定める上位・関連計画を踏まえて検討しました。

上位・関連計画で定められた各施策の中でも、その実現に向けて本公園が果たす役割が大きいと考えられるものとしては、下記のものが挙げられます。

計画名	計画の概要	山麓公園に関する事項
生駒市都市計画マスタープラン	土地利用や都市施設整備、自然環境保全など、これからの都市づくりの方向性を定める基本的な方針	子どもの成長につながる学びと体験の場の充実に向け、山麓公園の活性化を図る。生駒山エリア全体として自然的・文化的資源の保全と活用を図る。
生駒市緑の基本計画	緑地の保全と緑化の推進に関する総合的かつ計画的な方針	生駒山系を本市の骨格的な緑として保全・再生・活用するとともに、山麓公園は本市を代表するシンボリックな公園として魅力向上と活用を図る。
生駒市森林整備計画	森林整備の基本的な考え方や森林整備を推進するための森林づくりの構想	森林の有する多面的機能を高度発揮させるなど、総合利用のため、野外活動センターを活用する。
生駒市商工観光ビジョン	商業、工業、観光などの産業振興の具体的な指針	生駒市の観光面を代表する場所として生駒山を位置づけ、生駒山のブランド化を通じた観光振興拠点を形成する。
生駒市障がい者福祉計画	障がい者施策に関する基本方針や、障がい福祉サービス等の提供体制の確保に関する計画	障がい者がその希望や特性に応じて、様々な働き方を選択できるよう、山麓公園等での就労支援体制を充実する。

2. 各アンケート・事業者ヒアリング結果（意識調査）

1) 利用者、市内・市外在住者へのアンケート結果

本構想の策定に当たって、各種のアンケート調査を実施し、山麓公園を利用中の利用者255名、市内在住者1,203名(回答率40%)【対象3,000名】、市外在住者1,000名【オンラインモニター調査】の合計2,458名から回答をいただきました。

●認知度と利用頻度

市内・市外在住者の中で、「本公園を知っている」と回答した人は、市内では9割以上いる一方で、市外では約4割と大きな差があることが分かりました。また、利用頻度については、どのアンケートにおいても「年1回以上又は数年に1回程度」という回答が最も高い結果となり、日常的に利用する公園にはなっていません。

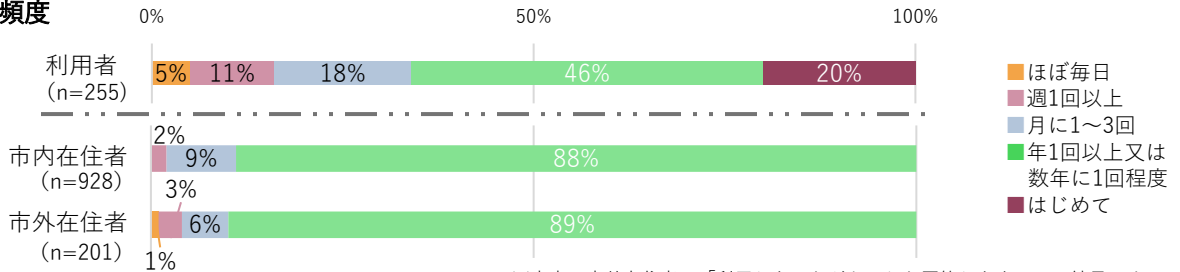
●利用目的

市内・市外在住者ともに「子どもを遊ばせる」、「自然の中で過ごす」が利用目的の上位となりました。このことから、本公園は「自然の中で遊ぶ場所」として多くの利用者から認識されていることが分かりました。また、現地で実施した利用者アンケートでは「ハイキングやランニング」を目的とする方も多く、本公園のそばを通る生駒縦走道とともに、本公園が利用されている様子がみられました。

●期待すること

今後の再整備によって本公園に期待することについて、施設では「遊び場」や「飲食物販施設」に対するニーズが高く、プログラムでは「自然をいかしたイベント」や「アウトドアアクティビティ」へのニーズが高くなっています。また、双方に共通する要素として、「自然と触れ合うことへの期待」が挙げられます。

■利用頻度



※市内・市外在住者は「利用したことがある」と回答した人だけの結果です。

■主な利用目的

利用者 (n=255)	市内在住者 (n=928)	市外在住者 (n=201)
・子どもを遊ばせる (50%)	・子どもを遊ばせる (53%)	・自然の中で過ごす (53%)
・ハイキングやランニング (27%)	・自然の中で過ごす (40%)	・子どもを遊ばせる (35%)
	・バーベキュー (18%)	・ハイキングやランニング (17%)
	・日帰り入浴 (17%)	
	・スポーツ (球技など) (15%)	

※市内・市外在住者は「利用したことがある」と回答した人だけの結果です。

■期待すること（施設）

市内在住者 (n=1,203)

- ・新規レストランやカフェ (39%)
- ・自然に親しめる施設や場所 (34%)
- ・マルシェや野菜の直売など (32%)
- ・大きな芝生広場 (31%)
- ・屋外の遊び場 (30%)
- ・くつろげる屋内スペース (27%)
- ・森や水辺をいかした遊び場 (26%)
- ・自然・眺望などのフォトスポット (26%)
- ・温浴施設の充実 (25%)
- ・子どもが屋内で遊べる施設 (25%)
- ・自然をいかしたアクティブスポーツができる場所 (22%)
- ・公共交通機関の充実 (21%)

■期待すること（プログラム）

市内在住者 (n=1,203)

- ・自然をいかしたイベントやプログラム (自然観察会、天体観測など) (32%)
- ・地域と連携したマルシェやフリマイベント (31%)
- ・アウトドアアクティビティ (21%)
- ・健康プログラム (ヨガ、ストレッチ教室など) (17%)

2) 学校団体へのアンケート結果

校外学習等で山麓公園を利用していると考えられる市内小中学校の全校に対してアンケート調査を実施しました。その結果、利用したことがあると回答した学校は半数以上であり、利用目的として最も多いのは野外活動（宿泊）という結果でした。

本公園の利用に関する学校団体からの意見は下記のとおりです。

利点	・学校から近距離であり緊急時対応がしやすい ・出入り口が管理されているため、比較的安全である
課題	・現状の施設やプログラム内容では、教育目標の達成が難しい ・児童数が多く規模に適合していない
期待	・雨天時でも活動できる屋内施設やプログラムの整備 ・教育目標に適した学習プログラムや、自然をいかしたプログラムの充実 ・宿泊機能の充実

3) 事業者へのヒアリング結果

今後の官民連携や民間活力の導入の可能性、事業構造検討等に関して事業者の視点からの意見を求めるために、現在も本公園の管理運営に関係している事業者と、施設運営に関わる事業者の計11社にヒアリングを行いました。

管理・運営事業者	・動々池や多目的広場等の整備を行えば、活用できるような資源は園内に複数存在している ・団体利用者以外の宿泊の一般向けニーズはあり、客室リノベーション等を行えば利用客が増加する見込みはある ・キャンプ関連ではロッジのニーズが高く、増設することで利用者拡大につながる ・夏場は自由に遊べる水場が必要 ・チームビルディング等のプログラムは団体利用者からの人気が高く、利用を伸ばしていきたい ・重度の障がい者が活動する場として、自然が多い公園は良い。一般の利用者との交流があるのも良い ・現状は元からあった施設の一部を障がい者向けに使用しているが、障がい者向けの独立した施設の方が通所者が馴染みやすい
外部事業者	・見晴らしのいい山上にあることなど「ほかにはない」魅力を最大限にいかし、「ここでなければできない」体験を目玉としていくことが必要（公園管理事業者） ・時代の変化により不要な施設を整理することも必要（公園管理事業者） ・公園での公民連携事業は、民間の自由度が高い事業構造にすることで、利活用の活性化、利用者増が図れ、まちにも貢献できる公園となることが可能である（公園管理事業者） ・公園、宿泊施設、レストラン、温浴施設が連動したオペレーションが必要だと考えるので、「どれかの施設だけ専門事業者に依頼する」という形は望ましくない（温浴施設事業者） ・運営事業者としては参画できないが、社会実験や知名度向上のイベント等であれば協力できる（アウトドア事業者）

3. 再整備に向けた目指すべき将来像等

前述の上位関連計画やアンケート・ヒアリングを参考に考えられる現状の本公園の問題点と、それらを踏まえた方向性を「拠点」、「体験」、「つながり」の3つに分類しました。その上で、本公園が目指すべき「将来像」と「基本方針」、「導入・強化する機能」等を次のように定めます。

生駒山エリアの問題点 ◆ 市が生駒山エリア全体のブランディングに取り組む中で、開園当初のコンセプトからの整理が必要 ◆ 公園内のみで運営が完結し、生駒山エリア全体との関係性が希薄	問題点を踏まえた方向性 ■ 生駒山エリアの魅力を創造・発信する拠点 ■ 生駒山エリアについての情報や関わる人が集まり、公園を起点として生駒山エリアを巡る周遊拠点	拠点
施設の問題点 ◆ 施設全体の老朽化・低利用施設の存在 ◆ ピーク時の駐車場不足	問題点を踏まえた方向性 ■ 施設更新計画の策定・改修 ■ 公共交通等のアクセス改善	
自然環境の問題点 ◆ 人の手が入らないことによる森林環境の悪化 ◆ 自然環境の遊びや学習への活用が不十分	問題点を踏まえた方向性 ■ 市民活動による森づくり等を通じた生態系の保全と継続的な利活用の両立 ■ 園内の自然環境の再評価と活用プログラム等の提供	体験
利用の問題点 ◆ 利用者数の減少 ◆ 年1回程度の低頻度利用	問題点を踏まえた方向性 ■ 多様な人が滞在・交流できるような場や機会の創出 ■ 新たな施設の導入や複数施設を連携させるプログラム等の提供	
地域共生・市民参加の問題点 ◆ 特定の団体のみでの活動にとどまり、新たな市民参加を促せていない状況 ◆ 障がい者就労を前提としていない施設環境	問題点を踏まえた方向性 ■ 協働・市民団体等の活動や民間事業者のアイデアを基にした協創型の運営 ■ 障がいの有無等にかかわらず、誰もが利用できる環境づくり	つながり

基本姿勢

行政だけでなく、市民や利用者、事業者らを交えたマネジメントにより持続可能な公園運営を進める

将来像

基本方針

導入・強化する機能

生駒山の魅力を体感できる拠点
「日常の近くにある非日常的な体験」

生駒山と出合いいざなう
「ウェルカムベース」
(拠点)

「動」と「静」の体験で
何度でも来たいくなる
(体験)

「やってみたい」が
無限大のつながりを生む
(つながり)

■ 生駒山の歴史・文化や自然に親しむ

- ✓ 生駒市のシンボルである生駒山エリアの歴史・文化や自然に親しめる拠点となる
- ✓ ハイキングやトレイルランニング等、生駒山エリアの様々な楽しみの起点となる

■ 生駒山の魅力を巡る

- ✓ 山麓公園と生駒駅、宝山寺、山上遊園地等へのアクセス性を改善し、生駒山ブランドの魅力向上に貢献する

■ 園内の自然環境を「まもり」・「はぐくみ」・「いかす」

- ✓ 園内の自然環境を、様々な体験の場にふさわしく保全・育成していく

■ 森で遊び、新たな発見に触れる

- ✓ 森や水辺での遊びや体験を通じて、子どもたちの気付きや挑戦する心などの「生きる力」が育まれる
- ✓ 四季を感じられるイベントや期間限定のアクティビティなど特別感のあるコンテンツの整備

■ 生駒の自然にまどろむ

- ✓ 森での泊まる・食べる・過ごすを通じて、自然の豊かさを体感する
- ✓ 時間と共に移ろう森の空気にまどろみ、心身をリフレッシュする

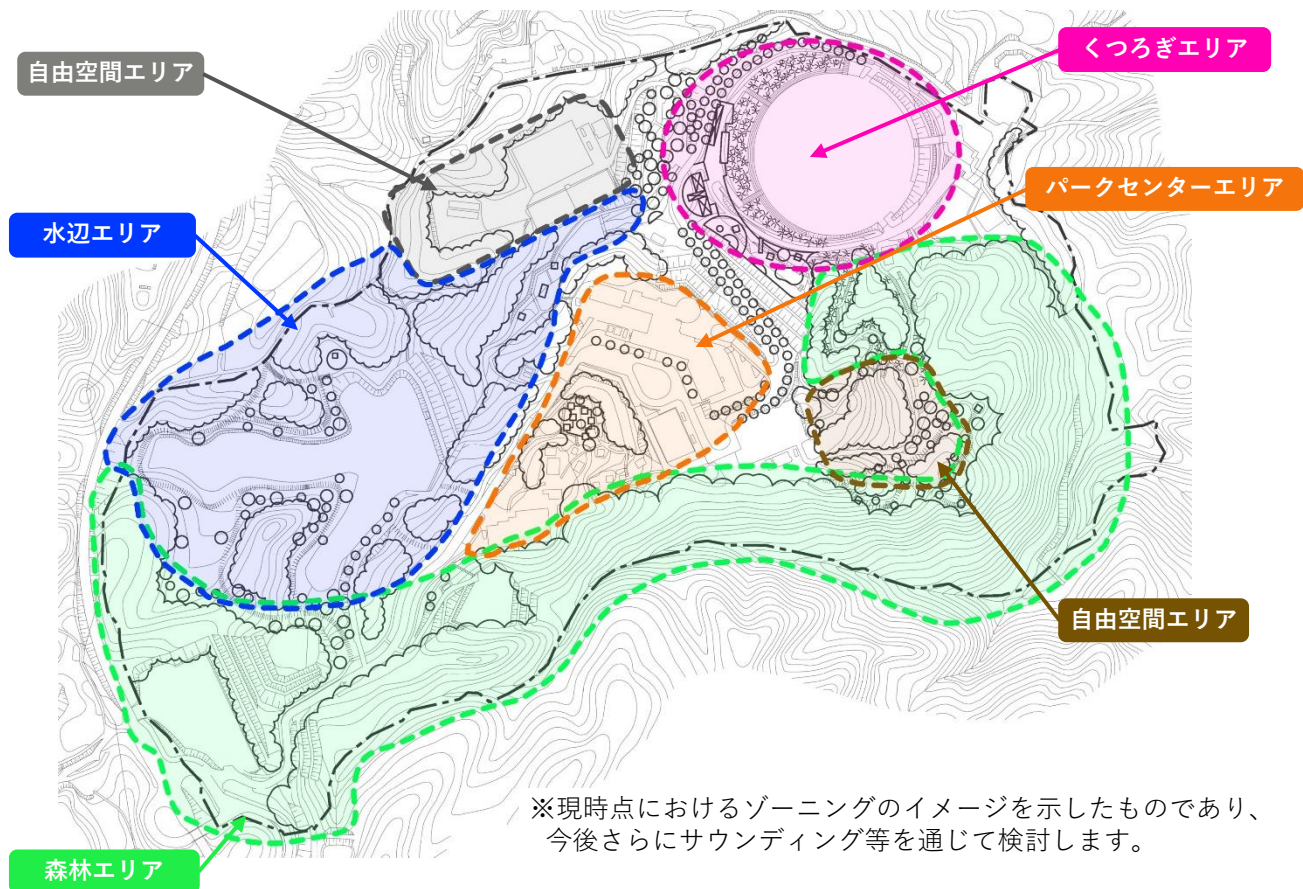
■ みんなの「やってみたい」を形にできる

- ✓ 子どもも大人も、市民も市外の人、みんなの「やってみたい」が実現できる
- ✓ 障がい者の社会参加や、多様な働き方の場としての包摂性を高める

■ 様々な主体の想いをつなぐ

- ✓ 市民やボランティア、公園利用者等、公園が人と人をつなぎ、人や地域のコミュニケーションを再構築する

■ゾーニングイメージ



体験・創造・発信の拠点イメージ



森の散策路イメージ

今後のスケジュール

令和7年度（2025）

基本構想

- ✓ これからの目指す姿（将来像・基本方針）
- ✓ 導入・強化する機能
- ✓ 事業の大きな枠組み

令和8年度（2026）

基本計画

- ✓ 主な施設の整備・再整備の内容
- ✓ 公園の再整備の事業手法
- ✓ 公民連携・市民協創手法
- ✓ 全体事業のスケジュール

令和9年度（2027）

事業者公募

- ✓ 事業者公募・選定
- ✓ 必要施設の再整備 等



令和8年7月
生駒市

